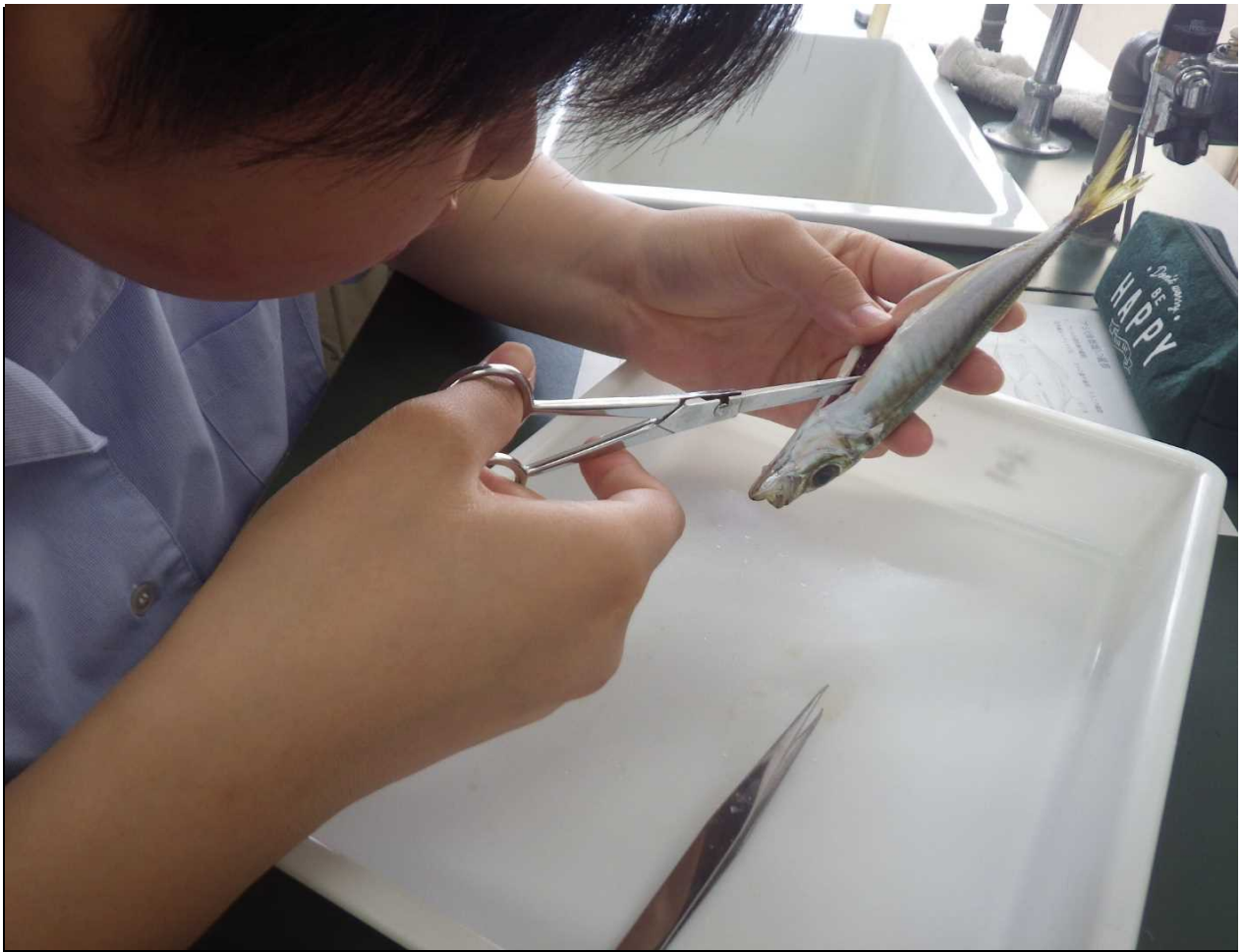




学校名	佐賀県立唐津青翔高等学校
タイトル	海洋生物実験：エビ（甲殻類）の観察
コメント	<p>本実験では身近な食材である甲殻類のエビを用い、解剖・観察・スケッチを行った。馴染み深いエビとしたことで、生徒は違和感なく実験に没頭できていた。加えて丈夫な外骨格に覆われているため扱いやすいこと、付属肢同士の比較が容易であり観察しやすいことから、前回のアサリ（二枚貝・軟体生物）以上に興味を感じているようだった。</p> <p>本実験では冷凍サンプルを用いたため、消化管や神経などの内部構造の観察は困難であり、基本体制や付属肢の観察に重点を置いた。普段食卓にあがるエビを生物学的な観点からじっくり観察、スケッチすることは、観察力の向上に有効である。さらにより深く理解させるため、多種の甲殻類との比較を行う方法も視野に入れた。</p>





学校名	佐賀県立唐津青翔高等学校
タイトル	海洋生物実験：アジ（魚類類）の観察
コメント	<p>本実験では我々ヒトと同じ脊椎動物である魚類類のアジを用い、解剖・観察・スケッチを行った。見た目や血の匂いから拒否反応を示す生徒もみられるかと心配したが、生徒は比較的落ち着いて実験が行えていた。脊椎動物であるアジは基本的にヒトと似た体の構造をもっているが、前回の解剖で使用した無脊椎動物のエビとはかなり異なっている。消化器官系や心臓、エラなどの構造を体験的に理解することができていたようだった。</p> <p>また、ワークシートにスケッチすることで、対象の細部まで観察する姿勢が身についているように感じるが、スケッチはうまく描こうとするのではなく、観察されたままを描くことが大切であることや、実際の大きさが分かるようにスケールを入れることも指導していきたい。</p>





学校名	佐賀県立唐津青翔高等学校
タイトル	有明海干潟の体験実習
コメント	<p>「海洋生物と環境」の授業の一環として、有明海の干潟生物の観察を行った。普段玄界灘沿岸に住む私たちは有明海の干潟やそこに生息する生物を目にする機会が少ない。有明海、玄界灘の環境や生物相を比較し、共通点や相違点を見つけること目的とした。</p> <p>生徒たちは全員が汚れてもよい服に着替え、潮が引き沖まで泥の浅瀬が続いている状態の干潟に入った。初めて目にする干潟に興味津々の様子で近づき、泥の感触に驚き、笑顔でカニやゴカイなど干潟に生息する生き物に触れていた。実際に目にし、触れたことでより一層学習が深まったようだ。干潟から上がった後は、有明海の生き物に触れて学ぶ環境教室に参加した。有明海の環境はこの20年で様変わりしたという。貝類の減少、ノリの不作、諫早湾干拓など。豊かな海を取り戻し、次の世代につなぐことを目標に、流域の上流、下流はもちろんのこと、広域で一体となった環境保全意識の醸成や体制づくりを目指されているとのこと。我々も体験に知識を合わせて、海の環境について考えを深めていきたい。</p>





学校名	佐賀県立唐津青翔高等学校
タイトル	シーカヤックの体験実習
コメント	<p>「環境調査」の授業の一環として、シーカヤックの体験実習を行った。実習地のいろは島は玄海国定公園有数の景勝地で、いろは48文字に因んで多くの島を総称して名づけられた。海面上昇や地盤の沈降などで生じた美しい多島海景観がこの地域の特徴である。多くの生徒たちにとって海から陸を眺めるは機会は無である。本時ではシーカヤックに乗り、沿岸域の地形や自然環境の特徴を観察すること目的とした。</p> <p>生徒たちはライフジャケットを装着し、シーカヤックの基本操作のレクチャーを受け、インストラクターのガイドで約2kmのいろは島の無人島を廻るツーリングを体験した。心地よい潮風と穏やかな海の上を滑っていくようなシーカヤックに夢中となり、周囲の観察まで及ばなかった生徒も多かったものの、いろは島とこれらを取りまくりアス式海岸、海に迫る急傾斜地、湾内では静かな潮の特性を活かした牡蛎の養殖が盛んな様子などを十分に体感したようであった。</p>